

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(移植)1)

フォント(書体)は記入部分が目立つようになっています。実際は明朝体などを使用して下さい。

薬剤名 ○○1キロ粒剤
 県名 ○○県

普及所等の名称と、実施市町村を記入。

作物 移植水稻
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

区分 一水処理

土質土性 沖積・埴壤土
 減水深 1cm/日
 標高 80 m

品種 コシヒカリ
 作期 普通期
 栽培方法 稚苗機械移植

植代日 2000年5月15日
 移植日 2000年5月20日
 移植苗木草丈・葉齢 12.4 cm、2.5葉

区分:技術確認圃の申請書の区分に従う。

西暦で記入。

確認している場合のみ記入。

処理時の作物の状況

圃場(面積)	処理回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理1回目	○○1キロ粒剤 1kg	5月20日 (±0)	田植同時 0cm→3cm	2.5L	未発生
	処理2回目	△△△液剤 1000mL(100L)	7月1日 (+42)	動力噴霧機 0cm		オモダカ 20cm
	処理3回目	□□1キロ粒剤	5月20日 (+0) 7月1日 (+42)	動力散粒機、3cm 0cm→3cm 動力噴霧機 0cm	2.1	オモダカ 20cm

雑草調査後に慣行防除で散布した除草剤があれば()で記入する。

移植後日数: 移植日を0とした日数を記入する。田植同時処理は(±0)として、移植直後処理(+0)と区別する。

乾物重、生体重のいずれかを記入。

移植後の日数を記入。

処理時水深: 田植同時処理、水口処理では処理時と入水後の水深を記入する。

書ききれない場合は、不要な項目、行を削除して調整する。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))				雑草調査日: 6月30日 (+41)	薬害		評点		
	ノビエ	カヤツリグサ類	コナギ	アゼナ		症状・程度	収量比対慣行			
確認圃	1.2	0	0	0.1	t	0.1 (13.5)	1.4 (4.4%)	無	100%	A
慣行	1.4	0	0.5	0.1g未満はtと記入。	0.1	0.1 (20.2)				

残草した草種名を記入。

上段:残草量
下段:慣行区比

適用登録外の雑草でも、発生が目立つ場合は()で記載する。総計には含めない。

備考
 無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ、コナギ (多発生量が多い草種には(多)を記入。
 処理時の状況及び所
 散布準備時間: ○分、散布時間: ○分、散布人数: ○人
 処理2日後に降雨(○○mm)があり、若干オーバーフロ
 田面が高く露出したところでノビエが残草した。
 処理時の情報があれば記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(移植)2)

薬剤名 ○○○ジャンボ
 県名 ○○県

作物 移植水稻
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

区分 体系処理(初期)

土質土性 洪積・砂壤土
 減水深 1cm/日
 標高 -

品種 コシヒカリ
 作期 早期期
 栽培方法 稚苗機械移植

植代日 20○○年4月17日
 移植日 20○○年4月22日
 移植苗草丈・葉齢 12 cm、2.1葉

西暦で記入する。

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (10a)	処理 1回目	○○○ジャンボ 10個(300g)	4月23日 (+1)	畦畔から投入 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアフル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始
	処理 3回目					
慣行 (10a)	処理 1回目	○○フロアフル 500mL	4月23日 (+1)	畦畔から手振り 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアフル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始、ホタルイ 発生始
	処理 3回目					

乾物重、生体重のいずれかを記入。

移植後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))				雑草調査日: 6月16日 (+54)		薬害		評点
	ビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉	ホタルイ	多年生雑草	総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	2本	0		5本		0.3 (60%)	無	100%	A
慣行	5本			4本		0.5	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度) /ビエ、ホタルイ、アゼナ、コナギ 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): 散布準備時間: ○分、散布時間: ○分、散布量: ○g 確認圃は、前年度に雑草が多く残草した圃場であったが、除草剤未使用は良好であった。				<ul style="list-style-type: none"> ・処理時の情報があれば記入する。 ・評点が「-」の場合、その理由を記入する。 ・残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 ・気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。 				

残草量が少なく重量の計算が困難な場合は、本数調査でも良い(単位(本)を記入し、本数調査であることを示す。)

上段: 残草量
下段: 慣行区比

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(直播))

薬剤名 **70アフル**
 県名 **県**

湛水直播、乾田直播のいずれかを記入する。

作物 **直播水稻**
 実施場所 普及所(町)

区分 **直播栽培**

西暦で記入。

土質土性 **火山灰・壤土**
 減水深 **2cm/日**
 標高 **53m**

品種 **ヒノヒカリ**
 栽培方法 **湛水直播栽培**
 播種方法 **土中播種(カルパー)**

植代日 **2000年5月5日** 播種日 **2000年5月8日**
 水管理 **播種後に水深3cmまで入水し、その後自然落水した。2000年5月23日に再入水した。**

圃場(面積)	処理回数	処理剤	処理日(播種後日数)	処理方法、処理時水深	作物生育程度	雑草発生(草名・草丈・葉齢・発生程度)	処理時の状況
確認圃 (10a)	処理1回目	1キロ粒剤 1kg	5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm	出芽前	未発生	水管理: 播種から再入水までの水管理を記入する。(乾田直播では入水日を記入。)
	処理2回目	70アフル 500mL	5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm	1L	/ビエ 2L	
	処理3回目						
慣行 (10a)	処理1回目		5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm	出芽前	未発生	発生量が多い草種には、(多)を記入する。
	処理2回目		5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm	1L	/ビエ 2L、ホタルイ 2L(多)	
	処理3回目						

コーティング資材についても記入する。

播種後日数: 播種日を0とした日数を記入する。播種同時処理は(±0)として、播種直後処理(+0)と区別する。

乾物重、生体重のいずれかを記入。

播種後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 6月25日 (+48)		薬害		評点
	ビエ	カヤツリグサ類	一年生広葉		ホタルイ	多年生雑草		総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	0		コナギ	アゼナ				13.6 (99%)	なし	100%	A	
慣行	0							13.8 (100%)	なし	100%		
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): /ビエ、コナギ、アゼナ、ホタルイ、オモダカ、クサネム							備考: 処理時の情報があれば記入する。 評点が「-」の場合、その理由を記入する。 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。				

無処理区を設置できなかった場合は、「周辺圃場での発生雑草」を記入する。(記入例)
 ※/ビエ、※コナギ、※アゼナ、※ホタルイ (※は周辺圃場で発生した雑草)

技術確認圃 報告書 記入例(水稻除草剤(ドローン散布))

薬剤名 **〇〇〇粒剤250**
 県名 **〇〇県**

作物 **移植水稻**
 実施場所 **〇〇普及センター(〇〇市)**

区分 **体系処理(初期)**

土質土性 **洪積・砂壤土**
 減水深 **1cm/日**
 標高 **—**

品種 **コシヒカリ**
 作期 **早期期**
 栽培方法 **稚苗機械移植**

植代日 **20〇〇年4月17日**
 移植日 **20〇〇年4月22日**
 移植苗草丈・葉齢 **12 cm、2.1葉**

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (10a)	処理 1回目	〇〇〇粒剤250 10個(250g)	4月23日 (+1)	ドローン散布 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアブル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始
	処理 3回目					
慣行 (10a)	処理 1回目	〇〇フロアブル 500mL	4月23日 (+1)	畦畔から手振り 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアブル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始、ホタルイ 発生始
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 6月16日 (+54)		薬害		評点	
	ノ ビ エ	カヤツ グサ 類	一年生広葉			ホタ ル イ	多年生雑草		総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	2本	0				5本						・処理時の情報(散布時間、作業人数など)があれば記入する。(散布器、散布液の調製などに時間がかかる場合は、散布準備時間として記入する。) ・評点が「-」の場合、その理由を記入する。 ・残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。 ・気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。
慣行	5本	0				4本						
備考	無処理区での発生雑草(発生程度) /ビエ、ホタルイ、アゼナ、コナギ 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): ドローン散布設定: 飛行速度15km/h、散布間隔10m、シャッター開度60% 散布時間: 確認圃(散布準備12分、散布時間2分、作業人数2人)、慣行(散布時間20分、作業人数1人) 慣行区に比べ作業時間が少なく、省力化できていると感じた。 確認圃は、前年度に雑草が多く残草した圃場であったが、除草効果は良好であった。											